

幼稚園から移行した認定こども園における乳児保育の課題Ⅱ

—A 認定こども園における領域「人間関係」を窓口にして—

栗岡 あけみ・多田 琴子

Problems in “ Infant Care and Education” at Certified Centers for
Early Childhood Education and Care Having Changed from
Kindergarten II : Through “Human Relationship” Practice at “A”
Certified Center for Early Childhood Education and Care

Akemi Kurioka, Kinnko Tada

豊岡短期大学 論集

第 16 号 別冊

令和 2 年 3 月 31 日 発行

幼稚園から移行した認定こども園における乳児保育の 課題Ⅱ

—A 認定こども園における領域「人間関係」を窓口にして—

Problems in “Infant Care and Education” at Certified Centers for Early Childhood Education and Care Having Changed from Kindergarten Ⅱ : Through “Human Relationship” Practice at “A” Certified Center for Early Childhood Education and Care

栗岡 あけみ・多田 琴子

Akemi Kurioka, Kinko Tada

問題の所在と目的

A 認定こども園は、2008 年度に幼稚園から幼稚園型認定こども園に移行し、2016 年度に幼保連携型認定こども園に移行しながら乳幼児保育を実施している。乳幼児保育の現状と課題について、領域「健康」を窓口にして整理を行い、移行に伴う A 認定こども園における乳幼児保育実践の課題を可視化した。また、乳児保育担当保育教諭が「意識して実践していること」、実践上の困り感を整理し、浮き彫りにすることによって、乳児保育の可能性と保育教諭が自身の資質向上に気付く重要性に言及した。研究成果は、2018 年豊岡短期大学論集において「幼稚園から移行した認定こども園における乳児保育の課題—A 認定こども園における領域「健康」を窓口にして—」として報告した。本研究は、その継続研究である。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以降、こども園要領とする）には、乳児期のねらいと内容が 3 視点（身体的・社会的・精神的）で示されている。人間関係における保育者の葛藤について黒木（2018）は、3 歳未満児クラスを担当する保育士の葛藤を検討し、子ども理解や、職場内の人間関係、仕事量の多さ、給料面など処遇面などの葛藤を整理している。原田（2018）は、2 歳児に限定した指導のあり方を検討し、2 歳児と保育者の人間関係について言及している。しかし、どちらも幼稚園から移行した認定こども園における領域「人間関係」についての課題抽出とはいいがたい。

本研究の目的は、領域「人間関係」・社会的な発達に対する視点の「身近な人と気持ちが通じ合う」

を窓口に、幼稚園から移行した A 認定こども園の保育教諭に対して、こども園要領を踏まえた保育展開の意識化を図るとともに、これまでに積み上げた乳幼児保育に対する A 認定こども園の課題を明らかにすることにある。

研究方法

A 認定こども園の保育教諭に「子ども同士の人間関係」「子どもと保育教諭の人間関係」「保育教諭同士の人間関係」についてインタビュー形式で質問を行う。インタビューは IC レコーダーを用いて記録し、語りを文字化して分析資料とした。インタビュー内容から、3 視点、5 領域の「人間関係」に特化し、乳児保育の課題について整理を行った。

調査対象の概要

調査日：2018 年 9 月 18 日 調査対象者：H 県 K 市私立 A 認定こども園

乳児部（0 歳児担任 1 名、1 歳児担任 1 名、2 歳児担任 3 名）

幼児部（3 歳児担任 1 名、4 歳児担任 2 名、5 歳児担任 1 名）

リーダー 1 名

乳児保育形態：分担制（分業制）

表 1 調査対象者の基礎データ

調査対象者 (★は子育て経験者)	幼稚園 経験年数	保育所 経験年数	認定こども園 経験年数
0 歳児 (3 名) 担任 A 氏★リーダー	5 年	9 年	5 年 6 ヶ月
1 歳児 (11 名) 担任 B 氏 (非常勤保育教諭 1 名対象外)	0 年	0 年	2 年 5 カ月
2 歳児 (19 名) 担任 C 氏★	1 年 10 カ月	5 年 11 カ月	6 年 6 ヶ月
2 歳児サポート D 氏	0 年	0 年	1 年 6 ヶ月
2 歳児サポート E 氏	0 年	0 年	1 年 6 ヶ月
3 歳児 (24 名) 担任 F 氏★	11 年	9 年 2 カ月	2 年 6 ヶ月
4 歳児 (16 名) 担任 G 氏★	2 年	3 年	1 年 6 ヶ月
4 歳児 (18 名) 担任 H 氏★	13 年 4 カ月	1 年	3 年
5 歳児 (30 名) 担任 I 氏★	0 年	11 年 4 カ月	2 年 6 ヶ月
フリーリーダー J 氏★	0 年	15 年 9 カ月	3 年 6 ヶ月

分析概要の整理

初めに、こども園要領の社会的発達に関する視点、乳児期・満 3 歳未満児の人間関係に関する事項の、ねらい・内容・内容の取り扱いから、乳児保育において大切にしたい文言を拾い上げグループ分けすると、ねらいとは異なり①受容的・応答的な関わり、②愛情と信頼関係、③人との関わる力、のカテゴリーを見出した。この 3 つを第一カテゴリーとした。次に、保育教諭に 3 つのカテゴリーに基づいてインタビューを行った。その語りを文字化し、保育教諭が領域「人間関係」で意識していると思われる現状と課題を見だし、グルーピングしたものを「第二カテゴリー」として分

析表を作成した。

インタビュー内容

- (1) 幼稚園から認定こども園に移行したことで領域「人間関係」の保育内容について・子ども同士の関係・子どもと保育者の関係・保育者同士の関係、それぞれについて意識して実践している現状と課題。
- (2) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」を捉えて
 - ① 受容的・応答的な関わりについて意識して実践している現状と課題について
 - ② 愛情と信頼関係の構築について意識して実践している現状と課題について
 - ③ 保育教諭が仲立ちし、生活を楽しむ中で他児と関わる力や自立について意識して実践している現状と課題について

倫理的配慮

インタビューは、プライバシーに配慮して、名前などが特定されない方法で取り扱い、結果の分析などについては、研究以外に使用しないことを口頭で説明して、了解を得たものである。

表2 第一カテゴリーキーワード表

社会的発達に関する視点、乳児期・満3歳未満児の人間関係に関する事項の、ねらい・内容・内容の取り扱いから、乳児保育において大切にしたい文言	⇒	第一カテゴリー
①依存 ②信頼関係 ③相手を尊重する気持ち ③互いに思いを主張 ②自分を肯定する気持ち ①一人一人の生活や経験 ③葛藤やつまずき ②継続的な信頼関係 ②愛情豊か ①発達の過程 ②安心できる関係 ③規範意識の芽生え ②身近な人 ①適切な援助 ②豊かな心情 ③折り合いを付ける体験 ②温かく見守る ③気持ちを調整する力 ①応答的な関わり ②自我の育ちを見守る ③親 ③家族を大切に ②関わりを深め ①安定感 ③祖父母 ②喜び ①一人一人の気持ちの受容 ②探求欲求 ③自分の感情に気付く ②仲立ち ③担当保育教諭が替わる場合 ①周囲から主体的として受け止められ ②丁寧に伝える ②家庭の愛情 ①欲求を適切に満たす ③自立 ③家庭との連携 ①応答的な触れ合い ③園児同士 ③共に育ち ①言葉掛け ③在園時間の異なる多様な園児 ①情緒的な絆 ③異年齢の子ども ③園児の様子の引継ぎ ①共に過ごす ③十分な連携 ③職員の協力体制 ①表情 ③指導計画に位置付け ③適切な援助 ①発声 ③意欲的 ③共感 ③子育て支援 ③相互に有機的な連携 ③きまりの大切さ ③他の園児との関わり ①気持ちを通わせようとする ③適切な援助 ③立ち直る経験 ①親しみ ③感情をコントロール ③自己と他者との違いの認識 ①語り掛け ③相手の気持ちに気づく ③協力 ①発語の意欲 ③やり遂げようとする気持ち ③よさに気付く ①温かく ③皆で使う ③高齢者 ③地域の人々 ①歌い掛け ③多様な感情を体験 ③特徴に気づき ①園生活の安定 ③共同して遊ぶ ③共通の目的 ③道徳性の芽生え ③社会性 ③互いに尊重する心	⇒	① 受容的・応答的な関わり
		② 愛情と信頼感
		③ 人と関わる力・自立・生活

表3 第二カテゴリーキーワード表

保育教諭の語り	
<p>①お母さんと離れて保育者との愛着関係 ②動線への配慮 ③生活のしやすい環境づくり ④保育者の働きかけでみんなをつなげていく ⑤自分が意識しながら変えていく ①怒って手が出てしまったときの対応 ③年上の子どものごさぎに気付ける機会 ④何を伸ばしていくか考える ②イヤイヤ期の対応 ③発達に合わせた教材研究 ④5歳児が関わってくれることに限りがある ④関わるタイミングの難しさ ①伝える難しさ ④関わる機会に限りがある ③過ごし方が把握できていない ①まずは一対一 ③3歳児との接点がない ④よく見て真似る ①0歳児と1歳児の関わりでの難しさ ③共通理解は大切 ④名前はわかる ②2歳から3歳児への持ち上がり担任の良さ ②進級児が後回しになる部分 ①言葉が出ない ③特性まではわからない ③1号認定の子どもはわかりにくい ②手をつないで一緒に ②心の成長も大きい ③放課後の話し合い ③その場限りで終わる ①やめてと言えない ②きょうだい関係 ③3月終わりの引継ぎ ③連携は8割できていない ②優しい言葉掛け①嘔みつき ①腑に落ちない感じが伝わる ②行動や優しい笑顔で示す ③2割はクラス担任の余裕のなさ ③優しく労わる ②お兄ちゃんお姉ちゃんに頼る ③遊びの豊かさ ③遊びの共有 ③刺激し合う ①ゆったりと ②給食の食べ物への配慮 ②合同保育時に用意する玩具への配慮 ③時間的なゆとりがない保護者 ③1号認定児と2号認定児の心のバランスが違う ①子どもの気持ちが一番 ②すぐに腕がぬける ②気をつかう ③嘔み碎いて言う ③異年齢の関係 ①職員体制によって子どもの情緒や行動が制限される ②連絡事項が伝えきれないことが多くなった ②職員が沢山いることで助けてもらっている ①かわいそう ②雰囲気は良い ③身振り手振りで教えてあげる ③子どもの動線を生活しやすいように ③職員会の少なさ ②研修日の報告を代替保育者からきちんとしてもらえる ①もどかしさ ②親離れしていない ③勤務時間の違いによる共通時間の少なさ ③持ち上げりの良さ ②子離れできていない ①子育て経験のあるパートの先生からの学び ③お世話役 ③お手伝いは自分発信 ②5歳児が自発的に手伝う ③主体的に関わる姿 ③子ども同士気を配る ②小さいクラスの子どもの思いやったり可愛がったりする ③おやつを食べる子どもと食べない子どもへの違和感 ①一言二言をかけるように意識している ②5歳児として認めていく言葉掛けでの成長 ③リーダーは全体を見ないといけない ②一人一人の成長を担任に聴く ①どのように満たしてあげてよいか迷う ③ゆったり待てるという姿勢を継続 ②助けてくださる方が広がる ②思いをかける ②入園時がバラバラ ②それぞれの役割理解 ②職員間のバランスに無駄がある ②子どもの共有がなかなか ①発達段階の違う難しさ ①情緒的に不安 ③園では一番上小学校では一番下 ①1号認定さんの子育ての気持ちのズレとバランスの違い ①子ども同士もバランスを取るのに大変 ①大きい子にお世話してもらえる安心感 ①感じる思い汲み取る思い ③意識の感じ方のアンテナを鋭く</p>	



第二カテゴリー	
現 状	課 題
①	①
<p>自信 憧れ 遊びの豊かさ 言葉の獲得 言葉遊び 幼児部延長利用時の乳児部の子ども理解 同じ時間勤務の保育教諭との同一対応</p>	<p>言葉を発せない子ども同士の関わり 乳児部から見た幼児部1号認定の子ども発達理解 入園時の違いによる発達段階の違いによる時間パート保育教諭との子どもへの対応統一 3歳進級時の引継ぎ</p>
②	②
<p>一対一の関係 安心した生活 兄弟姉妹との関係 優しさ 労わり ゆっくりと子どもの気持ちに寄り添う イヤイヤ期の対応 担任同士の放課後の話し合い</p>	<p>乳児部と幼児部の子ども同士の関係 不足 乳児部が幼児部の特性を意識した言葉掛け 喧嘩時対応のタイミングの難しさ 入園年齢の違いによる信頼関係</p>
③	③
<p>年上の子どものごさぎに気付ける機会 幼児部子どもの自尊心形成 発達に合わせた対応 けじめのある生活 子どもへの臨機応変な対応力</p>	<p>教育面の理解不足 異年齢の関係性 1号認定2号認定の生活リズムの難しさ 家庭内の状況把握 3歳進級児と保育教諭との距離の遠さ 慣らし保育 リーダーとの関係 乳児部幼児部互いのカリキュラム内容理解 乳児部と幼児部の交流内容確認とその時間確保</p>

表 4 第一カテゴリーと第二カテゴリー対比表

第一カテゴリー	第二カテゴリー	
	現 状	課 題
① 受容的 応答的な関わり	① 自信 憧れ 遊びの豊かさ 言葉の獲得 言葉遊び 幼児部延長利用時の乳児部の子ども理解 同じ時間勤務の保育教諭との同一対応	① 言葉を発せない子ども同士の関わり 乳児部から見た幼児部1号認定の子どもの発達理解 入園時の違いによる発達段階の違い 時間パート保育教諭との子どもへの対応統一 3歳進級時の引継ぎ
② 愛情と信頼感	② 一対一の関係 安心した生活 兄弟姉妹との関係 優しさ 労わり ゆっくりと子どもの気持ちに寄り添う イヤイヤ期の対応 担任同士の放課後の話し合い	② 乳児部と幼児部の子ども同士の関係不足 乳児部が幼児部の特性を意識した言葉掛け 喧嘩時対応のタイミングの難しさ 入園年齢の違いによる信頼関係
③ 人と関わる力 自立 生活	③ 年上の子どものすごさに気付ける機会 幼児部子どもの自尊心形成 発達に合わせた対応 けじめのある生活 子どもへの臨機応変な対応力	③ 教育面の理解不足 異年齢の関係性 1号認定2号認定の生活リズムの難しさ 家庭内の状況把握 3歳進級児と保育教諭との距離の遠さ 慣らし保育 リーダーとの関係 乳児部幼児部互いのカリキュラム内容理解 乳児部と幼児部の交流内容確認とその時間確保

分析結果と考察

(1) インタビューによるカテゴリー分析表と読み取り

表 5-1 「子ども同士の関係現状」カテゴリー

第一カテゴリー	第二カテゴリー
受容的・応答的な関わり	自信 憧れ 遊びの豊かさ 言葉の獲得
愛情と信頼感	一対一の関係 安心した生活 兄弟姉妹との関係 優しさ 労わり
人と関わる力・自立・生活を楽しむ	年上の子どものすごさに気付ける機会 幼児部子どもの自尊心形成

読み取り 子ども同士の遊びが豊かになるなかで、言葉を獲得して成長していることがわかる。また、異年齢での生活が3歳児からではなく、0歳児という更に幼い子どもとの関わりが増えたこと

により、言葉で表現できない子どものしぐさや表情から気持ちや考えを読み取り、対応するという優しさや労わりができるように成長することが読み取れる。さらに、3歳未満児が年上の子どものすごさに気付いたり5歳児になると自尊心が育ったりしていることがわかる。

表 5-2 「子ども同士の関係課題」 カテゴリー

第一カテゴリー	第二カテゴリー
受容的・応答的な関わり	言葉を発せない子ども同士の関わり
愛情と信頼感	乳児部と幼児部の子ども同士の関係不足
人と関わる力・自立・生活を楽しむ	教育面の理解不足 異年齢の関係性 1号認定2号認定の生活リズムの難しさ

読み取り 言語表現ができる年齢児と、できない年齢児との関わりからの難しさから、子ども同士の関係不足が読み取れる。特に、乳児部と幼児部の関係が不足することで、人を愛することや信頼することがうまく成長することに不安がある。また、幼稚園から認定こども園に移行したことにより、未満児（異年齢）との関係性の大切さを保育者自身は理解しているが、その難しさを感じていることも読み取れる。特に、未満児の保育者が教育面への理解不足や1号認定と2号認定の生活リズムの違いからくる対応への不安がうかがえる。

表 6-1 「子どもと保育教諭との関係現状」 カテゴリー

第一カテゴリー	第二カテゴリー
受容的・応答的な関わり	言葉選び 幼児部延長利用時の乳児部の子ども理解
愛情と信頼感	ゆっくりと子どもの気持ちに寄り添う イヤイヤ期の対応
人と関わる力・自立・生活を楽しむ	発達に合わせた対応 けじめのある生活

読み取り 幼児部の保育教諭は、乳児部の延長を利用して子ども理解ができていることがわかる。未満児特有のイヤイヤ期の対応の仕方については、幼児部の保育教諭は放課後、順番性で乳児部の補助に入る勤務体制である。そのため、乳児部の保育教諭の対応方法から幼児部の保育教諭が学び実践していることが読み取れる。

表 6-2 「子どもと保育教諭との関係課題」 カテゴリー

第一カテゴリー	第二カテゴリー
受容的・応答的な関わり	時間パート保育教諭との子どもへの対応統一
愛情の豊かさと信頼関係	乳児部が幼児部の特性を意識した言葉掛け 喧嘩時対応のタイミングの難しさ 入園年齢の違いによる信頼関係
人と関わる力・自立・生活を楽しむ	リーダーとの関係性 乳児部幼児部互いのカリキュラム内容理解 乳児部と幼児部の交流 内容確認とその時間確保

読み取り 乳児部の保育教諭は、延長保育を含めて常に乳児部で勤務するため、幼児部の子どもとの関わりが少ない。乳児部の保育教諭は、幼児部の2号認定児については延長保育での関わりがあるため、多少理解できているが、1号認定児とは殆ど関わらないことが現状である。そのため、理解に難しさを感じていることがわかる。また、乳児部から幼児部へ進級した子どもは、持ち上がり担任でない場合、進級児と新入児との関係性に難しさを感じていることがわかる。

表 7-1 「保育教諭同士の関係現状」 カテゴリー

第一カテゴリー	第二カテゴリー
受容的・応答的な関わり	同じ時間勤務の保育教諭との同一対応
愛情の豊かさと信頼関係	担任同士の放課後の話し合い
人と関わる力・自立・生活を楽しむ	子どもへの臨機応変な対応力

読み取り 勤務時間が同じ保育教諭とは、指導に関して話し合う時間ももてるため、共通援助ができる。そのため、どの子どもに対しても同じ対応ができ、子どもの戸惑いも防ぐことができる。また、話し合いが十分できるため、適材適所、関わるときに臨機応変な対応ができていくことがわかる。

表 7-2 「保育教諭同士の関係課題」 カテゴリー

第一カテゴリー	第二カテゴリー
受容的・応答的な関わり	時間パート保育教諭との子どもへの対応統一 3歳進級時の引継ぎ
愛情の豊かさと信頼関係	乳児部と幼児部の保育教諭との役割理解と協力体制による連携
人と関わる力・自立・生活を楽しむ	リーダーとの関係性 乳児部幼児部互いのカリキュラム内容理解 乳児部と幼児部の交流内容確認とその時間確保

読み取り 時間パート保育教諭との関係性やリーダーとの関係性など、子どもへの対応に共通性が見だしにくさがる。また、2歳児が3歳児へ進級するとき保育教諭による引継ぎが上手くいかなければ、子どもが不安を感じながら生活している様子がわかる。また、乳児部と幼児部の保育教諭がそれぞれの役割を理解して業務に当たることの難しさや、あまり協力体制が整っていないこと、交流内容の確認時間を確保する難しさがあることなどが読み取れる。

(2) 考察

分析結果を踏まえ、現状と課題を整理し、以下を把握した。

A) 子ども同士、子どもと保育教諭、保育教諭同士の積極的な「人間関係」の構築

幼稚園から認定こども園に移行したことにより、人間関係で大きく変化したことは、子ども達や、保育教諭が乳児部の子どもたちと共に生活することである。乳児期から幼児期という幅の広い人間関係の中で、保育教諭が温かい受容や応答をして依存できる居場所ができた子どもたちは、やがて

信頼関係を築いていく。子どもの安心や安定を大切にしながら遊びや生活を組み立てたり、保育教諭同士放課後の話し合いを行ったりして、積極的に人間関係の構築に努めている。

B) 年齢幅の広がりから見られる「人間関係」への戸惑い

子どもの年齢幅が広がることで保育教諭の子どもの発達理解や特性理解などに戸惑いが見られる。特に、2歳児から3歳児に進級した子どもと新入児とでは、家庭の成育歴や、集団経験に馴染めるまでの時間等に個人差がある。その両者の関係づくりや、子どもと保育教諭との関係性に難しさを感じている。3歳児未満時までの育ちを活かせる進級方法を模索していることがわかる。

C) リーダー自身の勤務内容の理解

筆者が明らかにし提示した2017年度の実践課題を受けて、2018年度よりA認定こども園には、乳児部リーダーと幼児部リーダー、全体のリーダーを設けることとなった。しかし、まだ、リーダー自身が、自分の役割を模索中で部の同僚に、どのように関わればよいのか迷っているのが現状である。乳児部の保育教諭は、幼児部の園児の育ち、幼児部の保育教諭は、乳児部の園児の育ちを知りたいが、知る機会がもてないことを課題にあげている。各リーダーには、この点を解決していく担い手になることが求められる。

D) 保育者同士のコミュニケーション作りの時間確保

幼稚園の時とは違い、認定こども園は勤める保育教諭数が多く、勤務体制も多種多様である。担任以外の保育教諭が一日のカリキュラムを理解した上で保育に携わり展開していくには、綿密な打ち合わせが求められる。そのためには、保育教諭同士のコミュニケーション作りの時間確保も重要になってくる。

改善策

(1) 2歳児から3歳児への接続の在り方

新入児の不安に影響を受け、できていたこともできなくなる進級児（担任一人に6名の2歳児・担任一人に20名の3歳児）もいる。幼稚園の3歳児担任は、新入児に対する保育カリキュラムを計画し実践することに焦点を合わすことができた。しかし、認定こども園に移行したことにより、新入児と進級児、1号認定児と2号認定児という多様な背景と保育経験をもつ子どもが出会い、新しい環境の中で、安定した人間関係を育むための保育が求められるようになった。実情は、移行前の保育感覚で新入児への配慮に重きを置く傾向が見られる。2歳児の担任がクラスを持ち上げれば、進級児の不安が多少は解消されるが、現状は必ずしも持ち上がるのが決められているわけではない。そこで新担任は、進級児を「できるもの」として捉えず、不安を抱えていることを十分配慮した上で保育計画をし、実践することが求められる。

(2) 移行に伴う異年齢交流の展開課題

異年齢交流での育ちは、憧れや思いやりなどを育てることができる。少子化時代でも、幼児部の子ども達が0歳児を抱いたり世話したりすることで、兄弟関係に似た幼い人たちに優しく大切に育つ心が育つ。移行前の異年齢交流の展開は、保育時間内で行っていた。教員が打ち合わせのための時間をもつことも可能であった。しかし、移行後は、1号認定児と2号、3号認定児が在籍するなかで、打ち合わせ会議の時間がもてず、前日もしくは当日、突然交流をもつ場合が多い。この場合、異年齢交流で乳児部と幼児部の人間関係で何を育てようとしているのかは定かではない。明確な育ちの方向性を導き出すためには、月計画、週計画を立案時に各クラス担任が会議の時間を確保し、今必要な育ちを話し合い、指導計画に絞り込むことが必要である。

(3) 勤務時間の違いからくる人間関係課題と改善

正規と非正規保育教諭の勤務時間差が、両者の相互関係性に歪みを生んでいる。原因は、保育の振り返りを共にする時間が確保できないことにある。それは、非正規保育教諭の責任の軽さを意識した勤務の場合、歪みはさらに大きくなる。正規保育教諭が、非正規保育教諭の勤務意識を変えるような働きかけをしなければ、意識の統一は図れない。まずは、両者が午睡時間を利用しながらも、指導計画の打ち合わせや保育の振り返りを行うことができれば、園児対応に均等性が保てる。勤務時間と保育教諭の特性をコーディネートし、適材適所の役割分担が必要である。

(4) 担任以外の1号認定児の発達認識課題

乳児部は、2号・3号認定の園児が在籍する。担当保育教諭は、0歳児から2歳児の園児の発達や特性をほぼ理解できていると考えられる。幼児部の保育教諭は、1号認定児の帰宅後は、当番制で教育課程後の保育を補助する業務に就く。その時に、乳児部に在籍している園児の発達について、乳児部担当保育教諭から説明を受ければ理解できる。しかし、乳児部の保育教諭は、3歳以上1号認定児について、ほとんど把握できていない状態である。ともすれば、1号認定児の理解を無理と考える傾向もみられる。4月に向けてクラス編成を行う際、乳児部の保育教諭が幼児部を担当することもあり得る。その場合、3歳児以上の発達についての理解が乏しければ、幼児部のクラス担任を受け持つことは難しくなる。これは、園経営の立場からすると問題である。乳児部の保育教諭が幼児部、特に1号認定児の発達が理解できるシステム作りが課題である。

(5) リーダー保育教諭と他の保育教諭の関係性の課題と改善への意識化

認定こども園の運営や活動を円滑・効果的に進めるため、リーダー保育教諭には、組織の理念や使命を教職員に浸透させる役割がある。また、リーダー保育教諭は、他の保育教諭のメンタルの不調を早期に発見し、保育教諭一人一人のストレスを低減させる役割も担わなければならない。質の高い実践を実現できるためにもリーダー研修を行い、その成長を図ることが大切である。そのリーダー保育教諭と他の保育教諭の関係性を構築するにあたり、プライベートとパブリックを区別した話し方が必要であり、強いてはそれが相互信頼関係を強めることにつながると意識したい。

参考文献

- 栗岡あけみ・多田琴子. (2018) 幼稚園から移行した認定こども園における乳児保育の課題：A 認定こども園における領域「健康」を窓口にして. *豊岡短期大学論集*, **15**, 29-36.
- 黒木 晶・前田亜由美・坂田和子. (2017) 保育に対する保育者の葛藤に関する研究動向：身近な人と気持ちが通じ合う」と「人間関係」「言葉」、「身近なものに関わり感性が育つ」と「環境」「表現」を中心に. *福岡女学院大学大学院紀要：発達教育学*, **4**, 37-40
- 原田明美. (2018) 2歳児に見られる「人間関係」の考察：特に5領域「人間関係」で出された1歳以上3歳未満児の「自主性」「きまりの大切さ」を中心に. *名古屋短期大学研究紀要*, **56**, 81-95
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2018) *幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説*, フレーベル館.

謝辞

インタビューにご協力いただきました、保育教諭の皆様に感謝申し上げます。

付記

本論文は、日本保育学会第72回大会において発表したものを加筆、修正したものである。